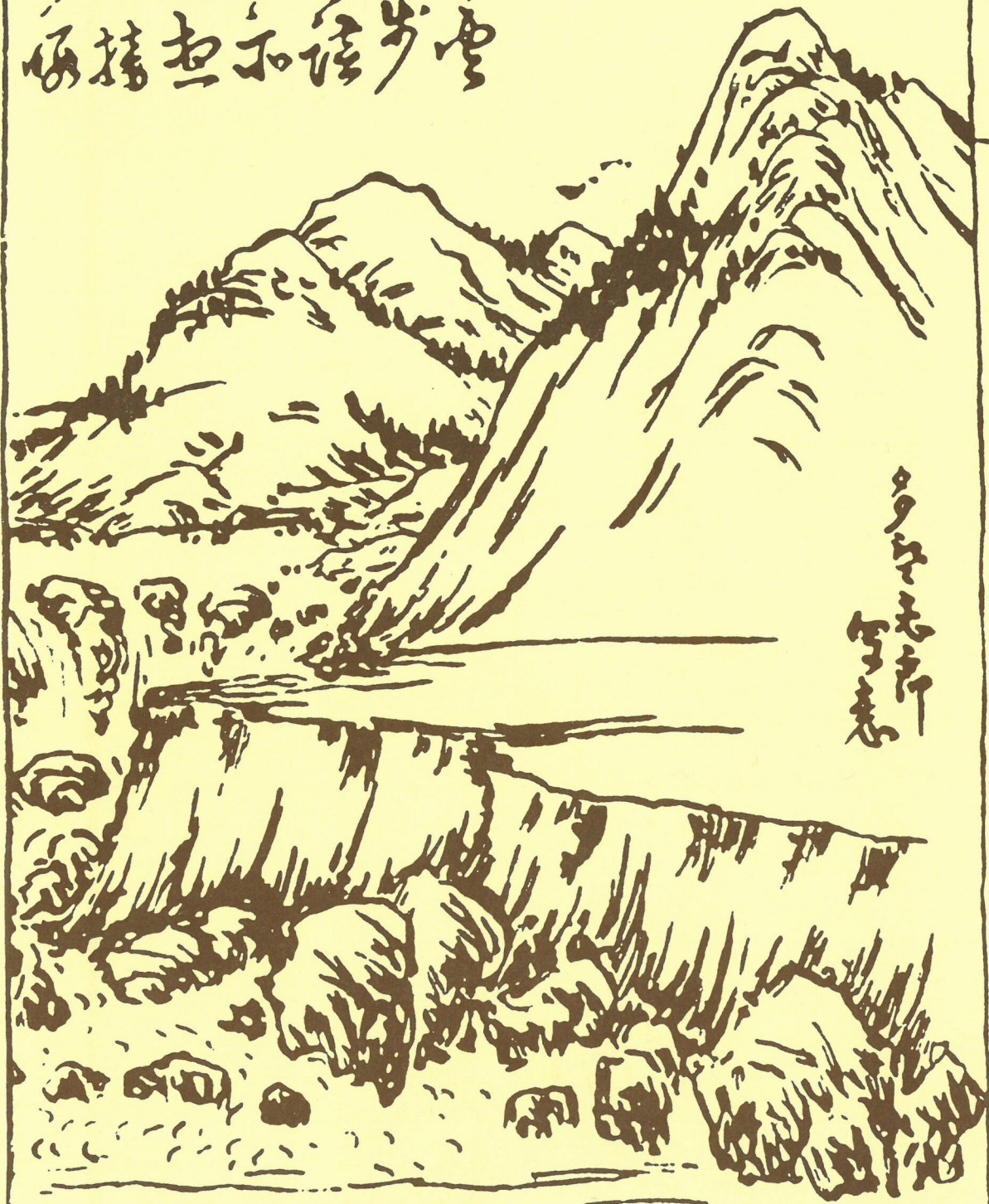


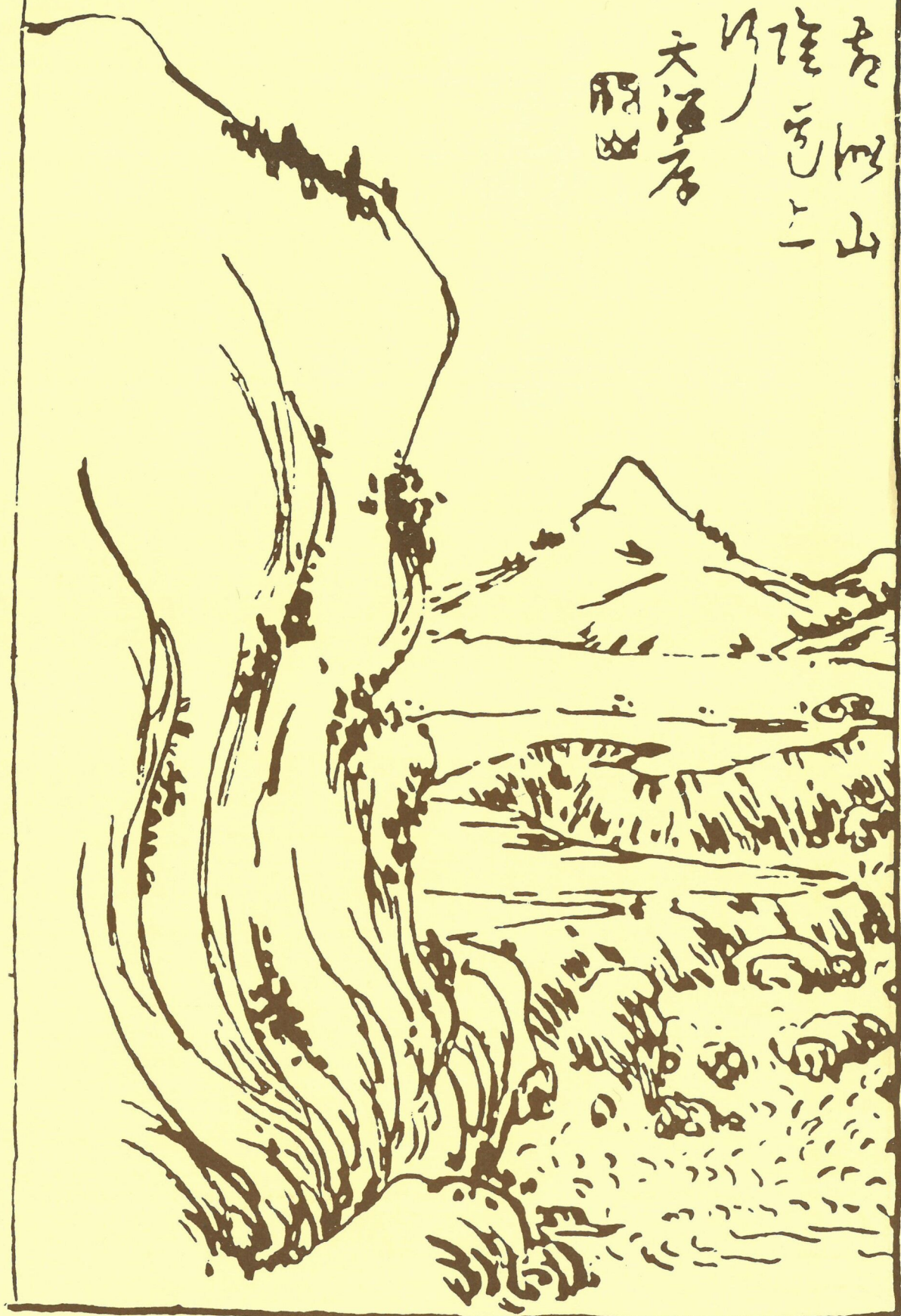
重山
步步
生烟
不
关情
想
不
应
接
生
生
何
处



山水
何
處



重山
步步
生烟
不
关情
想
不
应
接
生
生
何
處



滝川市史

上
卷

躍進



北海道知事堂垣内尚弘



北海道知事 堂垣内 尚弘



滝川市長 吉岡 清栄

序

昭和五十三年に滝川市開基八十八周年（米寿の年）、市制施行二十周年（成人の年）、滝川・江部乙合併八年目を迎えて、これを祝い多彩な記念行事を実施した。

その一環として滝川市史を刊行し、先人苦闘の足跡と、都市発展の歴史を纏めて、これを後世に伝えるとともに、後に続く人々が、往時を偲び、今日を思い、心の糧として、将来発展への資に供されることを願うこととした。

さて、滝川市は北海道のほぼ中央に位し、石狩川と空知川の合流する地点にあつて、诗情豊かではあるが、時に暴れん坊的な大氾濫を起こした。

明治二十三年一月に開村、その七月に屯田兵四四〇戸、家族を含めて一九三一人の入植によって、開拓の鍬がおろされた。次いで、明治二十七年五月に四〇〇戸の屯田兵とその家族一七八八人が江部乙地区に入地した。

また、その後、集団入植等により、地区の開拓に情熱を捧げてきた先人の筆舌に尽し難い労苦が積み重ねられたのである。

爾来、星移り年変わって九〇年、この間、江部乙地区は明治四十二年四月分村独立し、純農村として隆昌発展を続けて七二年を経過した。



助役 金山二男 市長 吉岡清栄 助役 荒島保
 教育長 網淵正幸 監査委員 布川春雄 収入役 松重三郎 水道事業管理者 峯田恒雄

昭和四十六年四月、今後一層地域の発展と住民福祉の向上を期して、滝川市と対等合併を行い、新滝川市を建設することになった。以来、新しい都市づくりに努力を傾けて、今日に至ったものであるが、人口は五万三〇〇〇人を容し、中空知の拠点都市として、恵まれた立地条件に立地し、交通至便、教育、文化産業経済の中心的役割と、誘導的役割は衆目の認めるところであり、この役割を果たすことに十全を図るためには、今後一層の努力と市民の協調推進が大きく期待されるところである。

ここに本史発刊の企画以来三年余、編さん委員をはじめ、事務局のご苦勞を煩わして、開基九十年の記念の年に発刊ができることになったことは、誠に喜びに堪えず、改めて、関係各位のご努力に深甚の謝意を表する次第である。

また北海道知事堂垣内尚弘殿より題辞のご揮毫をいただいたことは、新生滝川市の歴史に華を添えていただいたもので深く感謝するものである。

最後に本市史刊行に当たり、多くの方々からご指導ご協力をいただいたことにたいし、心から謝意を表し序とする。

昭和五十六年三月

滝川市長 吉岡清栄



市議会副議長 草沢 薫

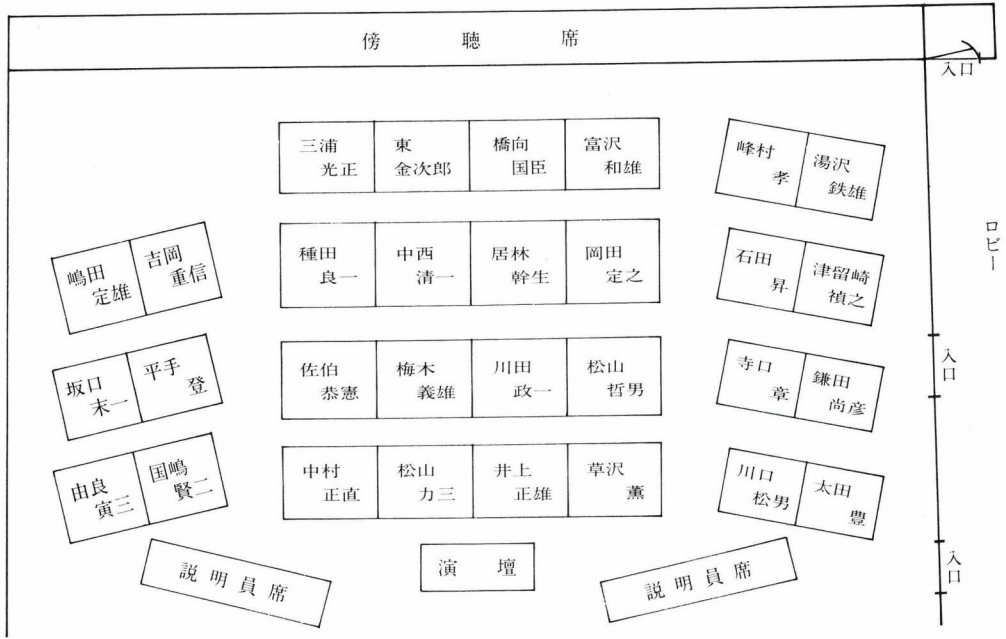


市議会議長 中村 正直



議場と市議会議員

議場議席配置図





市街地全景

